

生活 コミュニティ

「動きがよくなくなったね」午前八時。人けのないビルの中で、就労支援員が声をかける。トップを手に清掃業務を行っていた男性(28)は、「だいぶ慣れたから」と笑顔を返した。大阪市内の会社での実習の一コマだ。

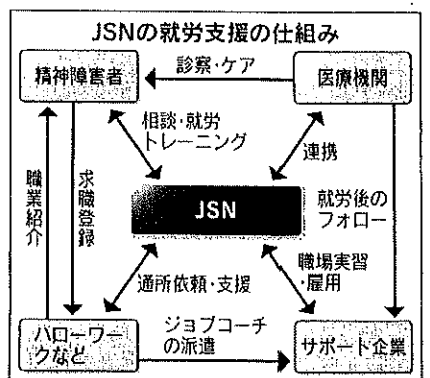
六月に始動したJSNには現在二十二人が通所し、就労訓練中だ。男性はその一人。うまくいけば近いうち就職先を見つけられると期待している。



田川 精二

統合失調症、うつ病など、精神障害者の就労が壁にぶつかっている。昨年からは障害者の法定雇用率に精神障害者の算入が認められたものの、企業の誤解や偏見は根強い。そんな中、大阪府の精神科医六人が中心となり特定非営利活動法人(NPO法人)、大阪精神障害者就労支援ネットワーク(JSN)を設立。就労支援活動を始めた。活動の狙いと現状について田川精二理事長に聞いた。

企業は一職場で興奮し始めた(らびびりしよう)などの不安や偏見を持ち、雇用に二の足を踏む。実は相談を受ける精神科医も就労に消極的。職場の理解の乏しさから離職を繰り返す患者が多いからだ。JSNはそのような状況を打開し、精神障害者に働く喜びを得てもらうための組織だ。



精神障害者の就労の壁崩せ

大阪府の医師6人が支援NPO



企業実習や就職後もJSNの支援員がサポート。通所者は安心して働く

阪精神科診療所協会が連発するが九百九十四人に実施したアンケートでは、六割が働きたい」と回答。「働きたい」と答えた人は二割にとどまった。

しかし、実際に就職しようとしても、望みがかなわないことは少ない。厚生労働省によると、〇五年の精神障害者数は三百三万人。ところが五十六人以上の企業がアンケートでは、六割が働きたい」と回答。「働きたい」と答えた人は二割にとどまった。

精神障害者の雇用でネックになるのは、ケアの難しさ。就労には医療との連携が不可欠だ。仕事の状況や体調の変化などの調整を

職場と連携 訓練、雇用後もケア

本人と職場だけに任せるのは、なかなか難しい。

そこで、JSNでは事業所内での訓練、企業実習、就労すべての段階で、精神科医やスタッフがバックアップする。企業と通所者双方に安心感を与え、働き続ける環境を保つためだ。

訓練を始める時は主治医の意見書や常用薬の情報を必ず参考にする。企業実習では就労支援員が定期的に顔を出し、実習先企業と調整する。訓練や実習先で通所者を見守る中でスタッフが気づいたことは、月に一度、主治医らと行う「ケース検討会」で説明、意見交換する。この流れは就職後も同じだ。必要であればJSNの精神科医が企業をサポートすることもできる。開設して三カ月。途中で辞める通所者が多いことも

厳格化(一定以上の高さの本造建築物専門業による構造計画の一手チェックが必要)が、市役所が実施している。申請できない状況。い、自治体。市庁舎の竣工。構造計画に不可欠な実務書(耐震設計の図面)の提出が、六月まで遅れたためだ。

耐震の安全性が第一だが、法改正が最速となり高層の厚みから、確認、検査を

なく、就労支援は順調に進んでいる。今後は、実習・就労先企業の開拓だ。

精神障害者数は〇二年以降の三年間に四十五万人も増えている。三十四代々の働き盛り世代も目立つ。多くの企業にとって、社員のメンタルヘルズ対策が緊急課題になっている。

精神障害者を雇い、働きやすいように仕事のシステムを整えた結果、従業員全体の生産性が上がった企業もある。障害者の雇用は社員が働きやすい環境づくりのノウハウや知識を得る機会にもなる。

JSNはスタートしたばかり。だが、うまく機能すれば他の医師や組織が後に続くはず。精神障害者の就労の景色が変わると思っている。

日時計

「例えば、本造はだめな部分で、この部分の耐力壁を削ると、本造から鉄骨に変更を要する恐れがある。いよいよ鉄骨改修に本造三階建ての予定だ。たか、設計事務所は、建築確認の見直しが必要だ。いよいよ断られたためだ。」

「六月、一日に施行された改正建築基準法では、一連の耐震偽装事件への反省から、確認、検査を厳格化(一定以上の高さの本造建築物専門業による構造計画の一手チェックが必要)が、市役所が実施している。申請できない状況。い、自治体。市庁舎の竣工。構造計画に不可欠な実務書(耐震設計の図面)の提出が、六月まで遅れたためだ。」

「耐震の安全性が第一だが、法改正が最速となり高層の厚みから、確認、検査を厳格化(一定以上の高さの本造建築物専門業による構造計画の一手チェックが必要)が、市役所が実施している。申請できない状況。い、自治体。市庁舎の竣工。構造計画に不可欠な実務書(耐震設計の図面)の提出が、六月まで遅れたためだ。」